

一筆啓上

作左通信



第二二二号 令和四年一月十五日(土)発行

人と繋がる 「もの」と「とき」

六ツ美西部小学校 校長 寺島 真澄

「わたし、この校長先生、知ってるよ。」

親なのです。

校長室に遊びにやってくる三年生の児童が、わたくしに指を指して教えてくれたのが、初代校長・渡辺勝英先生のお写真でした。

校長室にある卒業アルバムを開くと、卒業学年を担当した堺正司先生が凛々しいお顔で載っていました。

堺先生が学級の児童と学芸会で本多作左衛門の劇を披露したことが一つの契機となつて「一筆啓上・作左の会」が産声を上げることになったとお聞きしました。

今年、創立二十五を迎える六ツ美西部小学校。卒業生の数は三〇一人を数えます。当然のこと、当時、小学生であった子供が父親であり母

今年、創立二十五を迎える六ツ美西部小学校。卒業生の数は三〇一人を数えます。当然のこと、当時、小学生であった子供が父親であり母

三人を数えます。当然のこと、当時、小学生であった子供が父親であり母

小学生であった子供が父親であり母

科指導員で既にご活躍中でした。毎週の指導員会では、音楽のわたくしの前の席が生活科の堺先生の指定席で、いつも授業の見方、考え方をご教授くださいました。

しかし、この六ツ美西部小学校で共に過ごした歴史と時間は、決してその輝きを失うことはないと思っております。それはまた、四百有余年の時空を超えて、わたくしたちに「時代を生き抜く力と技の大切さ」を伝えてくださる本多作左衛門の生き様にも繋がるのではないのでしょうか。

かく言うわたくしも、六ツ美西部小学校とは縁があり、平成二十年に拠点校指導員として毎週月曜日、火曜日に仲間に入れていただき、おふたりの新任の先生に着いて助言させていただきました。

人は人と繋がっています。その繋がりは「もの」と「とき」が誘います。わたくしも「そんな誘いの欠片」になればと思う、今日この頃です。

新型コロナウイルスの恐怖と人類が闘いを繰り広げた令和二年、令和三年。年が明け、再び変異ウイルスの恐怖と隣り合わせとなり、人との関わりが希薄になるのではないかと懸念します。学芸会や運動会、卒業式

でさえも、共に喜びを分かち合うことが困難になるのではないか。心配は絶えません。

新型コロナウイルスの恐怖と人類が闘いを繰り広げた令和二年、令和三年。年が明け、再び変異ウイルスの恐怖と隣り合わせとなり、人との関わりが希薄になるのではないかと懸念します。学芸会や運動会、卒業式

でさえも、共に喜びを分かち合うことが困難になるのではないか。心配は絶えません。

新型コロナウイルスの恐怖と人類が闘いを繰り広げた令和二年、令和三年。年が明け、再び変異ウイルスの恐怖と隣り合わせとなり、人との関わりが希薄になるのではないかと懸念します。学芸会や運動会、卒業式

でさえも、共に喜びを分かち合うことが困難になるのではないか。心配は絶えません。

新型コロナウイルスの恐怖と人類が闘いを繰り広げた令和二年、令和三年。年が明け、再び変異ウイルスの恐怖と隣り合わせとなり、人との関わりが希薄になるのではないかと懸念します。学芸会や運動会、卒業式

でさえも、共に喜びを分かち合うことが困難になるのではないか。心配は絶えません。

新型コロナウイルスの恐怖と人類が闘いを繰り広げた令和二年、令和三年。年が明け、再び変異ウイルスの恐怖と隣り合わせとなり、人との関わりが希薄になるのではないかと懸念します。学芸会や運動会、卒業式

でさえも、共に喜びを分かち合うことが困難になるのではないか。心配は絶えません。



作左の会

検索